

B—107 被服工作（和服）における知的理解について（第2報）

郡山女短大 ○門馬 寿子
武藤 チイ

1. 被服工作技術指導における知的理解を基として、比較的難解と思惟されている被服工作について容易に被製作者に理解させることは被服学における工作の学問的方法として重要である。本研究は東北、北海道支部におけるの発表につづいて第2報とするものである。第1報における考察方法を用い、試料を大裁女物単衣長着として実験を試み、前回と比較検討し、総括的知的発達をしつつある被製作者の知的発達と、それに応じた指導の方法を見いだすために試みたものである。

2. 被実験者、本短期大第1学年学生、20名

試料、大裁女物単衣長着、水色木綿20人分実験群と統制群、各10名づつに部分的進行法（従来行なわれている縫方を中心とする方法）と総括的理解方法とにより指導しつつ縫製せしめる。作品完成後に質問紙により、作品に対する理解を調査し理解度を検討する。関口式評価法により、第1回第2回作品を評価し知的理解による質問紙結果と比較、その内在する理解度について検討。

3. 知的発達の進んだ製作者については個々の技法を伝授することよりも、総括的に理解させることは自発的、自主的学習態度と創作的発展的製作意欲を起こさせることになり、被服工作実施にともなう総合的能力の進展をはかり、ここより工作指導の内容改善と被服工作の

科学家的地位日益下降，甚至沦为“边缘”学科。